

平成22年12月28日

九州旅客鉄道株式会社  
代表取締役社長 唐池恒二殿

「歴史遺産『北九州市レトロ』を創る会」  
代表 竹下 秀俊

## 『折尾駅舎（中央2階建て部分）』の保存活用を求める要望書

師走の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

当会は、北九州市の歴史遺産を活かした『北九州市レトロ』を創り、北九州市を、日本を代表する観光地にしようと活動をしています。

『北九州市レトロ』を創るためには、東の玄関口「門司港レトロ」のように、西の玄関口折尾の、折尾のシンボル「折尾駅舎」を保存活用して『折尾レトロ』を創ることが重要だと考えました。

「折尾駅」は、JR九州の乗降客数、九州5位を誇る駅であり、「日本最古の立体交差駅」です。

「折尾駅舎の形」は、中間側が1階建て、鹿児島本線に隣接する側が2階建てになっており、このアンバランスな形こそが「立体交差駅」であることを証明する、『日本唯一』の駅舎です。

『九州の木造2階建て駅舎』は、「折尾駅」と「門司港駅」のみであり、「北九州市の玄関口」として、日本に誇るべき、『JR九州の、記念碑的な駅舎』です。

そして、日本近代化産業の基幹を担った、後世に継承すべき『日本の重要な歴史遺産』であり、「社団法人土木学会」でも、『都道府県レベルの有形文化財級』の価値があると評し、多くの学識経験者や諸団体が、「折尾駅舎の保存活用」の活動を実施してきました。

しかしながら、活動の甲斐なく「折尾駅舎」は解体が予定され、待合室と棟飾りの一部のみが、将来、レプリカで再生するために、「折尾出張所」に保管されることになっています。

今年9月に、折尾駅東口の「仮改札口」が、折尾駅舎横のトイレの位置にできるとの発表がありました。この位置に「仮改札口」ができるのであれば、折尾駅舎の『中央二階建て部分』を保存活用（別紙）することができ、更に、下記のメリットがあります。

### 折尾駅舎（中央部）保存活用のメリット

- ・ 折尾のシンボル『折尾駅舎』として、保存活用できる。
- ・ 駅舎中央部の2階建て部分の正面、待合室の壁3面と天井などを、現状のままで残せる。（保管予定の部材の全てが、保存活用できる。）
- ・ 解体された部材を保存するための場所、増築費、移転費などが不要になる。
- ・ 仮改札口の、建築費などが不要になる。
- ・ 駅舎の中央2階建て部分を、従来通り（駅長室、事務室などに）活用することができる。
- ・ 駅長室や事務室などの、建築費が不要になる。
- ・ 経費は、「曳き家」方式であれば、約3000万円で移動できる。（当会調べ）
- ・ 高架橋事業の工事期間中においても、寂しくなった折尾の街を活性化することができる。
- ・ 「今しか見れない！折尾レトロ」や「北九州市レトロ」として観光資源になる。
- ・ JR九州の増収になる。

「折尾駅」は、「博多駅」と同様に、『人々の記憶に残る、オンリーワンの駅』です。

「伝統と新しさの融合」した『北九州市レトロ』を創るためにも、「折尾駅舎の保存活用」が不可欠です。

どうか、「折尾駅舎（中央2階建て部分）」の保存活用を、よろしくお願い申し上げます。

【事務局】〒807-0825 北九州市八幡西区折尾4-10-1  
TEL: 090-2710-6810、FAX: 093-691-0686  
メール: kayo-myuzu@nifty.com、担当: 蒔田 加代